

令和7年度

大崎麦作情報 第2号

令和7年2月18日発行

宮城県大崎農業改良普及センター

TEL 0229-91-0726 FAX 0229-23-0910

<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

～今後の管理のポイント～

- 麦踏みを複数回実施し、生育量を調節しましょう。
- 生育ステージと生育量を確認し、追肥を行いましょう。
- 明きよ・暗きよの再点検を行いましょう。

1 気象経過

- ・気温は、10月・11月は平年より高く推移し、12月第4・5半旬に低温、1月第4～6半旬は高温、2月第2半旬は低温となりました。
- ・日照時間は、降雨時を除いては、期間を通じて平年並～多照で推移しました。
- ・降水量は、年内は少雨～平年並で推移し、1月第2半旬と2月第2半旬にはまとまった降雪がありました。

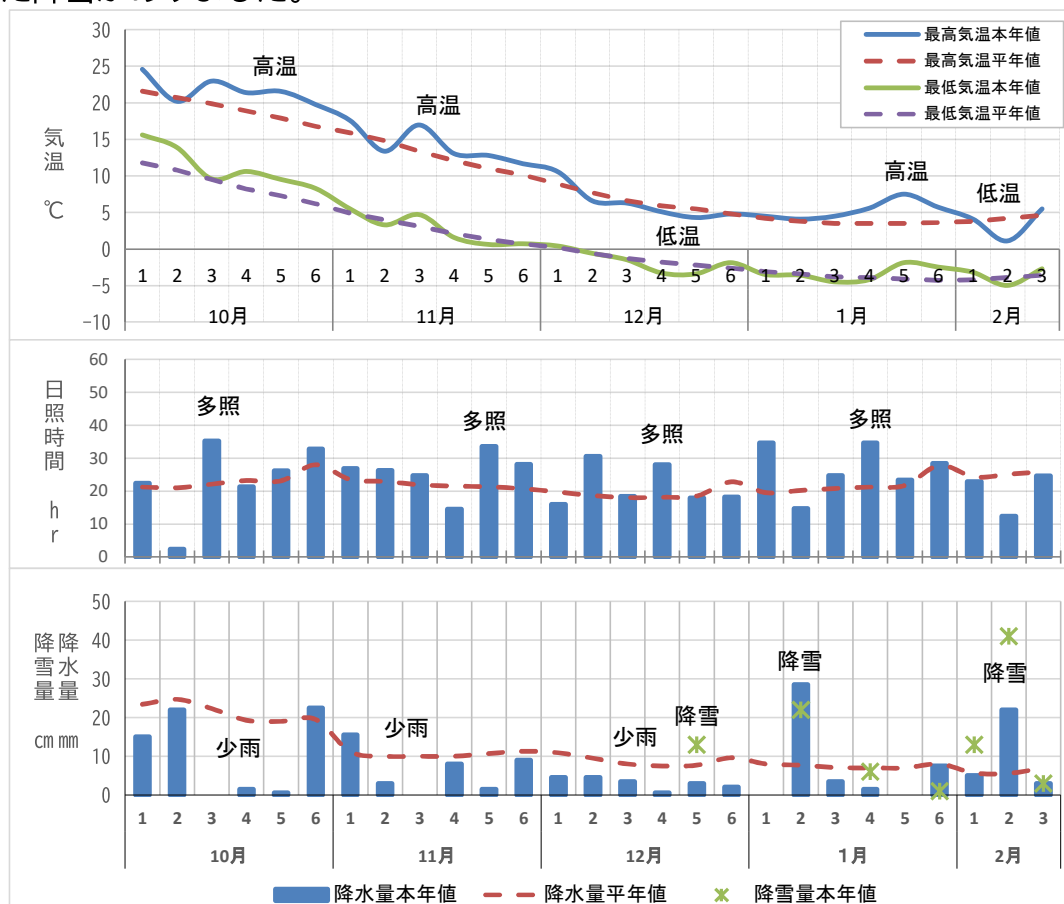


図1 10月から2月第3半旬までの気象経過（古川アメダス）

※ 実線又は棒グラフが本年値、点線は平年値

2 生育状況(2月10日調査)

○小麦「シラネコムギ」

- ・播種時期は降水が少なく、平年より5日早い10月19日の播種となりました。
- ・草丈は平年並から短く、2月10日調査(2月12日実施)では根雪の影響もあり平年比89%の10.2cmとなりました。
- ・茎数は、12月15日調査時点では年内の目標である400~500本/㎡を上回る672本/㎡、その後も分けつの増加が進み、2月10日調査では平年比199%の1395本/㎡と、前年と同様に生育旺盛でした。
- ・幼穂長は2月12日で0.47mmと平年より0.26mm長く、前年同様に生育ステージも進んでいました。

表1 生育調査結果

地区名 品種名	前作	比較	播種日	12/15				2/10				
				草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	幼穂長 (mm)	葉色 (GM値)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	幼穂長 (mm)	葉色 (GM値)	生育量 指数※
古川 シラネ コムギ	移植水稻	本年	10/19	12.7	672	0.06	46.5	10.2	1395	0.47	45.0	63.6
		前年差・比	-1	77%	99%	-	-	69%	91%	+0.06	-	-
		平年差・比	-5	99%	188%	+0.06	-	89%	199%	+0.26	-	-
	乾田直播 水稻	本年	10/22	12.0	747	0.02	37.4	10.9	1084	0.40	44.2	52.2
	子実 とうもろこし	本年	10/22	11.6	813	0.02	41.2	11.7	987	0.43	45.6	52.5

注) 平年差・比は、過去5か年(令和2年~令和6年産)の平均値との比較

※ 生育指標は cm 草丈×茎数/㎡×葉色値(×万)で幼穂形成期(幼穂長2~3mm)目安は86万。

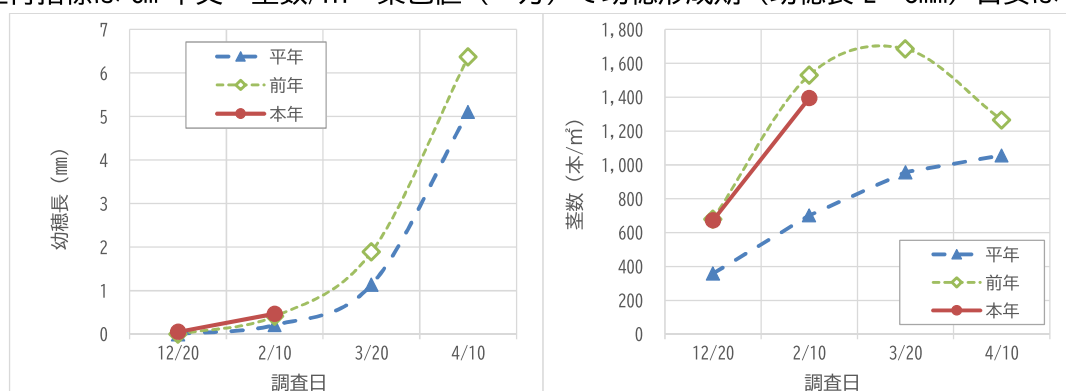


図2 幼穂長と茎数の推移

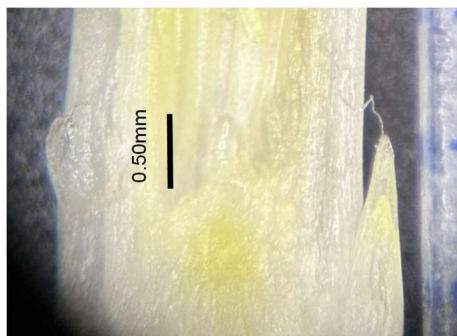


写真1 幼穂長の計測(2月12日)



写真2 生育状況(2月12日)

3 今後の管理

(1) 麦踏み

- ・越冬後の麦踏みは生育のバラツキを解消する効果があり、生育が再開する起生期（平均気温4℃）以降の作業が有効です。
- ・麦踏みの回数は、宮城県の慣行栽培では通常2～3回ですが、今年のような暖冬等のため伸びすぎ、生育が進みすぎたほ場では、大きな効果が期待できるので回数を多くして、生育量を調節しましょう。
- ・麦踏みは、茎立ち（主稈長2cm、幼穂長2mm程度）前までに行いましょう。
- ・生育量が足りない場合やほ場が湿っている状態での麦踏みは逆効果となりますので、麦の生育状況とほ場の状態に注意してください。

主な効果

○麦への効果

分げつ相互の生育調整、耐寒性・耐干性の強化、徒長や茎の早立ちの防止、分げつの増加、穂揃いの均一化、深根化、稈の強剛化

○土壌への効果

霜柱・干害による被害の軽減、強風による土移動の軽減と防止

(2) 追肥

麦類の施肥は生育ステージに応じた必要量を分施するのが基本です。生育量や幼穂長を確認し、必要に応じて適期に追肥を行いましょう。

表2 追肥時期とその目的、追肥判断の目安となる生育量の目安

追肥の時期	幼穂形成期 (幼穂長2～3mm)	減数分裂期 (幼穂長30～50mm)	穂揃期 (8～9割出穂)
目的	有効茎歩合増加 (穂数の確保)	一穂粒数の増加 登熟良化	子実タンパク質含有率 の向上
追肥時期	3月下旬～4月上旬	4月下旬～5月上旬	5月中旬
生育指標目安	86万	155万	142万～153万
葉色(GM値)目安	45	37	40
草丈cm×茎数/㎡目安	19.1千	41.9千	35.5千～38.3千
茎数/㎡目安※	1450本/㎡	1190本/㎡	-
N成分量(kg/10a)	2.5	2.5～5	2.5

※茎数の目安は生育調査ほ場の各時期草丈の平年値を基に試算したもの。

【幼穂長の測定方法】

- ①生育中庸な株の長い茎を3本以上採取する。
- ②茎の膨らんでいる部分を手で剥く、またはカッターで縦方向に切り裂く。
※ 勢いよく剥くと幼穂がちぎれてしまうので慎重に！
- ③茎の中心部にある幼穂の長さを測定する。
※ 芒は幼穂長に含めない！

(3)排水対策

麦は湿害に弱い作物です。融雪や急な降雨等により湿害が発生する恐れがありますので、明きよと暗きよの再確認を行いましょう。

- ・明きよ…手直し、管理機等で溝を作りましょう。
- ・暗きよ…栓が閉じられていないか再確認しましょう。
- ・湿害の影響（出芽後期～分けつ期）
…根の伸長抑制による浅根、分けつの減少、葉の黄化、生育遅延

東北地方 1 か月予報

(2月15日から3月14日までの天候見通し)

令和7年2月13日
仙台管区气象台 発表※抜粋

<予想される向こう1か月の天候>

東北太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	30	30	40
【降水量】	東北地方	40	30	30
【日照時間】	東北地方	30	30	40

<気象経過の各階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1 週 目	東北地方	30	50	20
2 週 目	東北地方	40	40	20
3～4 週目	東北地方	20	30	50

「大崎地域の稲作技術情報」、「大崎地域の大豆作技術情報」、「大崎地域の麦作技術情報」は、当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索または右のQRコードを読み取ってください。

